城陽高校図書館だより

ふみくら

2021－No. 4

令和３年１１月８日

京都府立城陽高等学校図書館発行

読書の秋です！

校内読書週間はじまります

学校祭も終わり、秋が深まってきました。全国的には 10 月 27 日から 11 月 9 日まで第 75 回読書週間です。もう読書週間まっただ中！　すてきな読書体験をしましょう。校内では、スタンプラリーも始まっています。そして、11 月 17 日（水）～24 日（水）は校内後期読書週間です。今年もいろいろなイベントがあります。

＜読書週間のイベントいろいろ＞11／17～11／24

古雑誌リユース

図書館で購入している雑誌のうち昨年 10 月号くらいまでをリユース。

ひとり１日１冊。先着順で持ち帰れます！！

さらに

最終日は何冊でも持ち帰れます！！

雑誌付録プレゼント

雑誌の付録（クリアファイルなど）をプレゼント！

応募制

応募者多数のものは抽選となります。

→城高クイズに挑戦しよう！

プレゼント応募用紙についている城高クイズに答えよう。
全問正解者には優先的に抽選をおこないます。
抽選日は　２４日（水）昼休み

第11回ＪＨＳＬビブリオバトル

11 月 19 日（金）放課後

図書館で第 11 回ビブリオバトルを行います。

ビブリオバトルとは？！参加者が順番に本のプレゼンをし、最後に参加者と観覧者が投票で一番読みたくなった本を決めるコミュニケーションゲームです。

プレゼン期間は原則 4 分間、先生と生徒のミックスバトルを予定

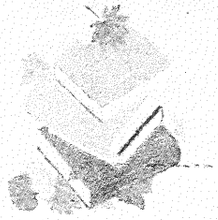
出場したい人は 11 月 15 日（月）１７：００までに図書館へ

1 位には図書カード、参加賞もあります。

古本交換会

いらなくなった本を図書館に持ってきて下さい。1 冊につき 1 枚古本交換券を渡します（また、古本を 3 冊提供するごとにスタンプカードに 1 個捺印します。ただし、教科書・雑誌はもちろん対象外！）。古本交換券 1.枚で欲しい本 1 冊手にすることができます。交換券のない生徒には 1 冊 10 円で販売します。が、出来るだけ交換券での取引をお願いします。（今回の収益は生徒会予算に繰り入れます）

（現在集まっている本）東野圭吾、百田尚樹、湊かなえ、佐藤多佳子の小説など



古本募集中！

まだまだいろいろな本が欲しいです。
今年は CD も募集しています！

古本交換会は 11 月 19 日は昼休みまでです。

放課後はビブリオバトルのため交換会はやっていません。ご注意下さい。

参考までに*第 75 回読書週間、今年の標語は*

最後の頁を閉じた
違う私がいた　です。

裏面には今年の２年研修旅行に関連した文学作品を紹介しています

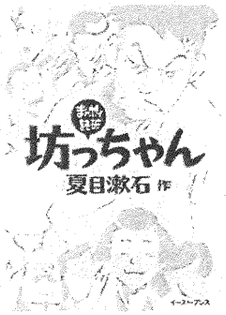
良い本との出会いがありますように。

今年の研修旅行は、香川・愛媛方面に変更になりました。

関連図書コーナーを図書館に用意しました。もちろん、文学以外の図書もあありますよ。

四国文学案内（愛媛・香川編）

「坊っちゃん」夏目漱石作



無鉄砲で子供の頃から損ばかりしている坊っちゃんが愛媛県松山市の中学校に赴任。美女マドンナをめぐる悪だくみをする赤シャツ先生に対し山嵐先生とともに立ち向かう痛快娯楽小説。親しみやすいように、マンガ版を用意しました。

「がんばって いきまっしょい」敷村良子著

愛媛県松山市の高校を舞台に、ボート部の活動に打ち込む5人の女子高生たちの姿を描いた物語。主人公の悦子のけがによる焦りや淡い恋が読みどころの青春小説。第4回坊ちゃん文学賞も受賞しています。また、「がんばっていきまっしょい」は1960年代前半ごろから松山で使われている「気合入れ」の掛け声です。

「青春デンデンデケデケデケ」 芦原すなお著

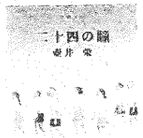
1960 年代の香川県観音寺市が舞台で、ベンチャーズというバンドの影響を受けた少年が高校入学後、ロックバンドを結成、ロックに明け暮れるメンバー4人の高校生活を描いています。主人公はバンドリーダーのちっくん。大学受験を控えての思いも交えながらバンドのすばらしさを伝えていきます。この題の「デンデケ～」はベンチャーズの曲のオノマトペからとってます。

「八日目の蝉」角田光代著

不倫相手の子供（恵里菜）を誘拐した女・希和子の逃亡生活は小豆島での逮捕で終わりを迎える。しかし、恵里菜もまた成長して男と不倫関係になり、子供を妊娠。その後、友人千草と再会し失った自分を取り戻していく。恵理菜の再生の物語と、希和子のその後が瀬戸内の港で美しく描かれる。

「村上海賊の娘」和田竜著

戦国時代に瀬戸内海を席巻した村上水軍当主の娘・景は、信長に追い詰められ窮地に陥った本願寺を救うため、物資を輸送してほしいという依頼をうけ、戦いに身を投じていく。瀬戸内を舞台に乱世を生きる者たちの合戦を描いています。



「二十四の瞳」壺井栄著

小豆島の分教場に赴任してきた大石先生と12人の教え子の物語。戦争という悲劇の中、そして、貧しさの中、懸命に生きる人々の姿を描いています。

「海辺のカフカ」村上春樹著

田村カフカは、家出して香川県高松に向かい、図書館で出会った館長の佐伯さんを母ではないかと思い始め、関係を持ちます。また、カフカは目覚めて、血だらけで倒れているという状況に見舞われます。虚実入り乱れた世界でのカフカの旅が始まります。一方で、カフカの父を殺したナカタも高松にやってきます。高松を舞台に繰り広げられる著者得意の不思議な物語。

「母のない子と子のない母と」壺井栄著

終戦直後の小豆島を舞台に家族を失った女性と、母親を失った兄弟の交流を中心に、島に暮らす人々の生活が描かれています。 しばらくして、兄弟の父は戦争から帰ってきますが、なかなか職に就くことができずある決心をします･･･。